

編集室への手紙

[編集室への手紙]

日本血液事業学会の沿革概要

日本血液事業学会事務局

昭和52年7月19日、仙台市の宮城県医師会館において、日本血液事業学会の前身「日本赤十字社血液事業学会」の設立総会および第1回日本赤十字社血液事業学会(学会総会)が開催された。午前10時から(1)学会設立委員会(2)評議員会(3)役員会が、午後からは(4)総会(5)特別講演(6)シンポジウム(7)懇親会が行われた。

学会設立委員会は、設立準備委員会委員長菊池武彦氏(大阪府赤十字血液センター所長)から学会設立の主旨と経過が説明された。学会設立の主旨は、設立要綱(案)1. 目的「本学会は血液事業に関する学術的研究を行なうとともに知識と技術の向上を図りもって血液事業の推進発展を期することを目的とする。」および同学会規約第2条に掲げられた。設立経過は、一昨年来より各血液センターから強い要望が本社に寄せられていたので本社において基幹センターに諮って案をまとめた、本年4月、5月に開催された全国赤十字血液センター所長会議、事務局(課)長会議で設立の主旨に賛同を得た、6月3日に第1回設立準備委員会を開催して今後の進め方について検討した、7月1日に「日本赤十字社血液事業学会の設立について」(各赤十字血液センター所長あて設立準備委員会委員長名)をもって学会設立委員会への出席方依頼、日本赤十字社血液事業学会開催日程、同設立要綱(案)を通知した等が報告された。学会設立委員会は、満場一致で設立を承認し、学会設立要綱および学会規約を承認した。

引き続き第1回評議員会が開催され、各基幹センターから2名の会長選考委員会を設けて会長に菊池武彦氏(大阪府赤十字血液センター所長)を選出し、役員の選出、昭和52年度事業計画および収支予算が審議され了承された。

午後は総会が行われ、役員紹介、評議員会採択事項の報告、日本赤十字社社長挨拶があり、菊池

武彦会長から赤十字社連盟血液事業特別顧問Z・S・ハンチェフ博士の祝電が披露された。

総会に続いて開催された第1回日本赤十字社血液事業学会(学会総会)(総会長＝千葉修次郎氏＝宮城県赤十字血液センター所長)では、特別講演「血液成分製剤の製造と供給について」(京都府赤十字血液センター所長細井武光氏)、シンポジウム「献血者登録制について」(大阪府赤十字血液センター副所長田中正好氏、北海道赤十字血液センター所長浜中栄一氏、日本赤十字社中央血液センター副所長松永信夫氏)が行われた。

学会機関誌「血液事業」第1巻第1号は、昭和53年3月に発行され、発刊のことばで会長菊池武彦氏は、学術研究の成果の発表機関であるとし、「なお、忘れてならないことは、この機関誌は会員が作るものであることです。会員自身の努力と情熱が生みかつ育てるものであります。」と述べている。

学会の名称は、昭和59年9月13日～14日に大阪において開催された第8回学会総会(総会長田中正好氏)で審議され、多様化する血液事業の発展に伴います臨床医との連携を密にし、さらに充実した学会運営を行うこととして「日本血液事業学会」と改称することとし、昭和60年8月22日(評議員会文書審議)に改称して、9月12日～13日に京都で開催された第9回学会総会(総会長細井武光氏)から日本血液事業学会総会と称した。

平成8年に千葉市で開催された第20回学会総会(総会長十字猛夫氏)は、国際輸血学会(ISBT)アジア部会、日本輸血学会と、平成21年に名古屋市で開催された第33回学会総会(総会長神谷忠氏)は、国際輸血学会(ISBT)アジア部会、日本輸血・細胞治療学会、全国大学病院輸血部会議と同時開催された。